

にら葉先枯れ症状軽減に向け、ハウスの排水性を改善

活動対象：知内町ニラ生産組合

道南農業試験場からの技術支援を受け、土壌物理性の改善手法を習得し、現地で実証を行った。

1 課題の背景

数年前より、冬期のにらにおいて葉先枯れ症状が発生し、問題となっている。症状の発生要因が不明なため、対処法が見いだせていなかった。H30年から渡島地域農業技術支援会議のプロジェクト課題で取り組んでいる。



2 活動の経過

ニラ葉先枯れ症状：考えられる発生要因 Ver.2

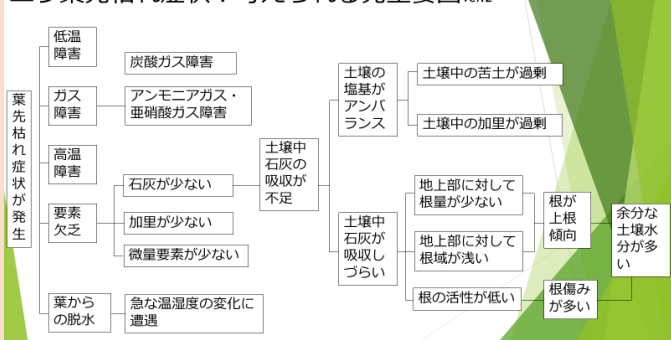


図1 発生要因の絞り込みと整理



写真1 土壌調査
(ニラ生産組合と協働)



写真2 現地調査
(道南農試と協働)

3 活動の成果

葉先枯れの症状を絞り込み、発生の条件、要因および対処方法を整理することができた。

養分吸収阻害（現象の結果として石灰欠乏）

①発生条件

- ・根量、根域が狭い
- ・土壌水分が高い
- ・地上部が大きい

②発生要因



③対処方法

- ・根張りを深くする：根域を確保できるよう、ハウス土壌の物理性を改善
- ・根の活性を維持する：排水改善を行う
- ・地上部と根の生育バランスをとる：適切な株養成

図2 症状の発生条件、要因、対処方法を整理

症状軽減に向け、ハウスの排水性を改善するカットドレンminiを施工実演した。



土壌水分を低減できた

写真3 排水改善の実証
(カットドレンmini)
機材は試験場より借用

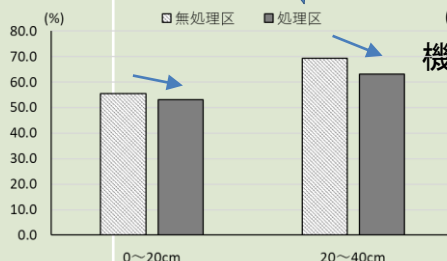


図3: 含水比の比較
薄いグラフ: 無施工
濃いグラフ: 施工

4 今後の課題

冬期のにらを調査し実証技術の効果を確認、にらの安定生産につなげていく。